

**教材1-D-(1) 四則の混じった式の計算**

④ 『 $3 \times (-5) + 20 \div (-4)$ 』の解決のために

加法と減法、乗法と除法の混じった計算では、□ を先に計算する。

$$\underbrace{3 \times (-5)} + \underbrace{20 \div (-4)} = (\square) + (\square)$$
$$= -20$$

**たしかめよう**

次の計算をなさい。

①  $3 - 5 \times (-7) =$

②  $(3 - 5) \times (-7) =$

③  $2 \times (-6) + 15 \div (-3) =$

④  $-15 - (-4) \times 7 + (-12) =$

年  組 名前

**教材1-D-(2) 四則の混じった式の計算(正負の数の整数)**

④ 『 $9 \times (-2) - 24 \div (-6)$ 』の解決のために

加法と減法、乗法と除法の混じった計算では、 を先に計算する。

$$\begin{aligned} \underbrace{9 \times (-2)} - \underbrace{24 \div (-6)} &= (\quad) + (\quad) \\ &= -14 \end{aligned}$$

**たしかめよう**

次の計算をなさい。

①  $2 - 6 \times (-5) =$

②  $(1 - 6) \times (-8) =$

③  $3 \times (-4) + 12 \div (-3) =$

年

組 名前

**教材1-D-(3) 四則の混じった式の計算**④ 『 $2 \times (-6) - 39 \div (-3)$ 』の解決のために

○加法、減法、乗法、除法の混じった計算では、を先に計算する。

$$2 \times (-6) - 39 \div (-3)$$

乗法
除法

(1) を符号（マイナス）と考えた場合

$$= (\text{}) + (\text{})$$

$$= 1$$

(2) を減法の記号（ひく）と考えた場合

$$= (\text{}) - (\text{})$$

加法に直して

$$= (\text{}) + (\text{})$$

$$= 1$$
**たしかめよう**

次の計算をしなさい。

①  $5 \times 3 - 6 \times (-2) =$

年

組 名前

$$\textcircled{2} \quad 2 \times (-4) - 25 \div 5 =$$

$$\textcircled{3} \quad -7 \times (-2) + 24 \div (-3) =$$

<b>チャレンジ</b>
--------------

$$\textcircled{4} \quad -18 - (-6) \times \frac{2}{3} + 4 \div (-2) =$$

$$\textcircled{5} \quad \frac{2}{3} \times \frac{5}{4} + \frac{5}{7} \div \left( -\frac{5}{6} \right) =$$

教材1-D-(4)

四則の混じった計算 (正負の数の整数)

『 $6 + 4 \div (-2)$ 』の解決のために

加法、減法、乗法、除法をまとめて四則という。

$$\begin{aligned} 6 + 4 \div (-2) &= 6 + (\quad) \\ &= 6 - 2 \\ &= 4 \end{aligned}$$

←加減と乗除が混じっているときは、乗除を先に計算する。

たしかめよう

次の計算をなさい。

①  $6 + (-3) \times 4 =$

②  $-8 + (-4) \times 2 =$

③  $7 + (-18) \div (-3) =$

④  $9 - 6 \times (-2) =$

⑤  $(-4) \times (-5) - (-20) \div 5 =$

⑥  $(-5) \times 2 - 15 \div (-3) =$